

I 次の文章を読み、後の問に答えなさい。

2016年7月、国立西洋美術館本館がル・コルビュジエの建築作品の一部としてユネスコの世界文化遺産に登録された。その2年前には、明治時代に **A** を実現するために、殖産興業の政策のもとに群馬県に設けられた、官営の **B** も同じく世界文化遺産として登録されている。日本には現在16の世界文化遺産があるが、登録されている遺跡や記念物が16しかない、というわけではない。

たとえば京都や奈良には、社寺や都城などが集中しているが、京都では教王護国寺、慈照寺、西本願寺、清水寺、仁和寺など複数の時代の記念物が「古都京都の文化財」として一括して登録され、奈良では平城宮跡、興福寺、唐招提寺、東大寺、正倉院などが「古都奈良の文化財」として、また法隆寺、法起寺が「法隆寺地域の仏教建造物」として一括して登録されている。こうした日本の世界文化遺産は、いまのところ全てが古代以降のモニュメントであり、それより前の時代の遺跡は残念ながらまだ登録されていない。非常に知名度の高い、たとえばかつての考古学ブームを牽引した高松塚古墳や **C**、日本列島における旧石器文化の存在を証明した岩宿遺跡などは未登録である。

〔問〕

- 1 **A** に該当するものを漢字4字で記述解答用紙に記入せよ。
- 2 **B** に該当するものを漢字5字で記述解答用紙に記入せよ。
- 3 下線部 a について、以下の i ~ iv の説明のうち、誤っているものの組み合わせはどれか。1つ選び、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。
 - i 中央北寄りに宮をおき、内部は条里制に従って道路で区画されている。
 - ii 日本における都城の変遷は、古い順に藤原京、平城京、長岡京、平安京である。
 - iii 中国の長安城と咸陽城をモデルとしている。
 - iv 平城京跡からは、「長屋親王」の文字がみえる木簡が見つかっている。

ア i と ii イ i と iii ウ ii と iii エ ii と iv オ iii と iv
- 4 下線部 b について、桃山文化の代表的な庭園建築をもつ寺院を1つ選び、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。

ア 教王護国寺 イ 慈照寺 ウ 西本願寺 エ 清水寺 オ 仁和寺
- 5 下線部 b について、禅の精神に基づく簡素さを旨とした建築を1つ選び、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。

ア 教王護国寺 イ 慈照寺 ウ 西本願寺 エ 清水寺 オ 仁和寺
- 6 下線部 c に関する説明として、正しいものはどれか。2つ選び、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。

ア 法隆寺の建築や正倉院宝物には、ユーラシア大陸をまたいだ東西交流の痕跡が認められる。
イ 法隆寺は斑鳩寺ともいい、蘇我氏の四天王寺とならぶ飛鳥文化の代表的な建築である。
ウ 東大寺は総国分寺とも称され、仏教の鎮護国家思想を具現しているが、荘園は持たなかった。
エ 和同開珎より古く、奈良県飛鳥池遺跡でつくられたのが富本銭である。
オ 長岡京から平城京をへて平安京に移るまでを奈良時代とよぶ。
- 7 下線部 e の代表的な彫刻や工芸品のうち、天平文化に属さないものはどれか。1つ選び、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。

ア 興福寺阿修羅像 イ 唐招提寺鑑真像 ウ 法隆寺玉虫厨子
エ 正倉院螺鈿紫檀五絃琵琶 オ 東大寺法華堂執金剛神像

- 8 下線部 d の壁画は、各地の影響をうけているといわれるが、同時期の文化の説明として、誤っているものはどれか。1つ選び、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。
- ア 高松塚古墳壁画は、契丹の壁画の人物像に類似した男女群像が極彩色で描かれている。
 - イ 高松塚古墳壁画やキトラ古墳壁画は、近年その劣化が問題となった。
 - ウ 初唐文化の影響が全般的につよい。
 - エ 和歌も漢詩の影響をうけ、このころ詩型が定まった。
 - オ 柿本人麻呂や額田王といった歌人が活躍した。
- 9 C は、日本に水稲耕作が広まり、中国・朝鮮半島の影響をうけた青銅製の祭りの道具が使用された時代の代表的な環濠集落である。あてはまる遺跡名を1つ選び、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。
- ア 大湯遺跡 イ 紫雲上山遺跡 ウ 三内丸山遺跡 エ 吉野ヶ里遺跡 オ 上黒岩遺跡
- 10 下線部 e とそれに続く縄文文化の説明として、正しいものはどれか。1つ選び、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。
- ア 沖縄県では、港川人、山下町洞人など、原人段階の化石人骨が発見されている。
 - イ 旧石器時代の終わりになると、細かい刃をもつナイフ形の石器がつくられるようになる。
 - ウ 縄文人は、古くからアジア大陸北部に住んでいたひとびとの子孫と考えられている。
 - エ 縄文時代は農耕が発達し、四季の変化に応じた生業の変化があった。
 - オ 磨製石器が普及した縄文文化は、ユーラシア大陸各地の新石器時代に対応する文化といえる。

II 次の文章を読み、後の問に答えなさい。

南北朝内乱のさなかの14世紀半ば頃、対馬・壱岐・松浦地方や済州島の住民を中心とする海賊集団が、朝鮮半島や中国大陸の沿岸をたびたび襲い、食料や人を略奪して甚大な被害が出るようになった。例えば、日本で観応の擾乱が武力対決に発展したのと同じ年、高麗は海賊による大規模な襲撃を受け、この年**庚寅年**が人々の記憶に深くきざまれ、以後「**庚寅以来の倭寇**」というように、海賊に対する倭寇という呼称が定着していく。

同じ頃、中国では新たに成立した明が、東アジアに伝統的な国際秩序を回復させるべく、近隣諸国に働きかけを始めた。日本に対しても通交と倭寇の禁圧を求めて交渉を試み、九州に勢力を有した後醍醐天皇の皇子である **A** と接触したが、内乱の中で成果は挙げられなかった。14世紀末、高麗に代わって成立した朝鮮は、日本に対して通交と倭寇の禁圧を求めるとともに、倭寇に懐柔策をとり、官職を授けたり、日朝間の貿易に従事させたりした。

明の海禁政策のため、15世紀の日明関係としては、**B** と呼ばれた割符を持ち、明の皇帝に朝貢する形式をとった国家間の貿易がよく知られている。その一方、中国南部の島嶼地域を根拠地とし、九州の海上勢力と結んだ密貿易もさかんに行われていた。明はこれら密貿易商人を倭寇と呼んで取り締まろうとするが、その弾圧に対抗するように、16世紀以降、倭寇の中国沿岸への侵略が激化する。明の歴史書には、以下のように描かれている。

三十二年 三月、汪直⁽¹⁾ 諸の倭を勾ひ⁽²⁾、大挙して入寇す。艦を連ぬること数百、海を蔽いて至る。浙の東西、江の南北、浜海の数千里同時に警を告ぐ。……三十三年、……縦横に来往し、無人の境に入るが若し。……大抵、真倭は十の三、倭に従う者十の七なり。(明史・日本伝)

(1)明の嘉靖32年のこと。西暦1553年。 (2)王直のこと。

また、とくに16世紀半ば、日本産銀の生産量が飛躍的に増加すると、中国産生糸との交易の重要性が増した。同じ頃、博多商人と結んで **B** 貿易を独占していた **C** が滅亡したため、以後は倭寇の活動がさらに活発になる。やがて、みずからを海上の平和維持者として位置付けた豊臣秀吉の対外政策のなかで海賊取締令が出され、倭寇が禁止されるようになるまで、その活動は収まることがなかった。

〔問〕

- 下線部 a について述べた文として誤りを含むものはどれか。1つ選び、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。
ア 足利尊氏派と高師直派の権力闘争が内乱に発展した。
イ 一方は鎌倉以来の伝統的な御家人勢力を代表した。
ウ 一方は畿内近国の悪党的な新興武士勢力を基盤とした。
エ この擾乱の中で、足利尊氏は南朝勢力と一時和睦したことがあった。
オ この抗争は、足利直義の敗死の後も続いた。
- 下線部 b のような、干支（十干十二支）による紀年法に関連して述べた文として誤りを含むものはどれか。1つ選び、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。
ア 数え年61歳のことを還暦というのは、生まれ年と同じ干支に戻るからである。
イ 辛酉年は天命が革まる、革命年であるとされた。
ウ 干支は、年だけでなく月日にも配された。
エ 庚寅の次の年の干支は、庚卯である。
オ 庚寅年籍が作られたのは、「庚寅の倭寇」の年から660年前のことである。
- A** にあてはまる人名はどれか。1つ選び、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。
ア 護良親王 イ 宗尊親王 ウ 成良親王 エ 久明親王 オ 懐良親王

- 4 下線部 c について説明した文として誤りを含むものはどれか。1つ選び、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。
- ア 朝鮮は貿易相手を室町幕府の派遣する使節に限定する見返りとして、倭寇の取り締まりを求めた。
 - イ 朝鮮からは、高麗版の大蔵経が、將軍をはじめ各地の武士や寺院の求めに応じてもたらされた。
 - ウ 日本からは、銅や硫黄のほか、琉球を通じて得た香辛料などが朝鮮に持ち込まれた。
 - エ 15世紀はじめ、朝鮮は貿易に一定枠を設けるため、宗氏が発行した文引の携帯を義務づけた。
 - オ 16世紀はじめ、三浦に住む日本人居留民への統制強化に反発して起きた乱のあと、貿易関係は衰えた。
- 5 に該当する漢字2字を記述解答用紙に記入せよ。
- 6 下線部 d の船が漂着し、船客のポルトガル人が初めて来日したとされる場所はどこか。その地名を漢字で記述解答用紙に記入せよ。
- 7 下線部 e の内容について述べた文として正しいものはどれか。1つ選び、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。
- ア 本来の倭寇の支配地域は十分の三、倭寇に降伏した地域は十分の七にあたる。
 - イ 本来の倭人は十分の三、倭寇となった中国人などが残りの十分の七にあたる。
 - ウ 純粋な日本人は十分の三、そのほか混血の日本人が十分の七にあたる。
 - エ 本当の倭寇は十分の三、倭寇の名をかたる者が残りの十分の七にあたる。
 - オ 中国に根拠地を持つ倭寇は十分の三、倭寇が支配する日本に住む者が十分の七にあたる。
- 8 下線部 f に関して、朝鮮から精錬技術を初めて導入して増産に成功した鉱山の名を、漢字で記述解答用紙に記入せよ。
- 9 にあてはまる語は何か。1つ選び、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。
- ア 細川氏 イ 山名氏 ウ 大内氏 エ 大友氏 オ 尼子氏
- 10 下線部 g について述べた文として誤りを含むものはどれか。1つ選び、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。
- ア 秀吉の九州在陣中にバテレン追放令が出された。
 - イ バテレン追放令の後も信仰を捨てなかった高山右近をマニラに追放した。
 - ウ 豪商による東アジア諸国との貿易を積極的に奨励した。
 - エ ゴアのポルトガル政庁やマニラのスペイン政庁などに入貢を求めた。
 - オ 朝鮮に対し朝鮮国王の入貢と明征服への先導を要求した。

Ⅲ 次の文章はフランスの新聞『ル・タン』の記事（1910年8月27日付）の翻訳である（省略ないし一部変更したところがある）。これを読み、後の問に答えなさい。

8月22日以降、朝鮮の日本の領土への組入れは既定の事実となっている。朝鮮の日本による掌握はすでに進んでいたもので、併合は驚くにはあたらない。いわば宿命なことだった。それにこの小さな国の運命はこの数年ヨーロッパの列強にとってはあまり関心を引きつけるものではなくなっていた。ヨーロッパ列強は、介入を求める韓国皇帝の絶望的な呼びかけにも、耳を貸さないままだった。

1876年の条約^bは朝鮮の領土を近代日本の事業に開くと同時に国際舞台へと開ききっかけでもあった。1884年に、一般には朝鮮王朝を打倒する企てと見なされている事件^cがおこったが、日本が期待していたような成果は得られなかった。1885年、天津で中日間の協定が締結された^dが、これは、当時中国がまだ保持していると見なしていた外交上の領土に対する中国の強い姿勢を示していた。その後間もなく1888年にはロシアと朝鮮の間に条約が結ばれ、またアメリカの公使が積極的な動きを見せるなど、ソウルは国際的な競争の場所と化していった。もはやこの勢力争いに決着をつけるのは戦争という手段しかないことは明白であり、1890年以降日本はその準備を進めていったのだ。

1894年の反乱^eは口実であり、中国との戦争は手段であり、日本はそれによって朝鮮を日本の支配下に移せると信じたのだろう。朝鮮の占領が完了すると、日本軍は満州に侵攻せずそこにとどまり、守りの姿勢に入ったことは、日本の戦略目標が達成されたことを示していた。下関条約はこの事態を公認するものだったが、同時に日朝関係の「ロシア期」とも言える時期を開くものともなった。閔妃が命を落とした1895年10月の宮廷内の惨劇^fの後、A。1896年の露日協定と、これに続く1898年の露日合意は、下関条約がつくり上げた事態を解体した。これと並行して進められたロシアの遼東への進出、旅順の占拠（1898年）、1902年に約束された満州からのロシア軍撤退の不履行^g、これらが新たな戦争の原因になった。

1904年2月、戦争は、まず朝鮮を直ちに日本の戦略領域に取り込むこと^hから始まった。この戦争の結果は1905年にポーツマスで締結された条約によって公認され、その一条項で朝鮮における日本の独占的な支配権が明確に認められた。1905年11月にB侯爵が武力による威嚇を背景に韓国皇帝からもぎ取った条約はポーツマス条約で認められたこの優位をさらに発展させるものにほかならず、この優位はさらに1907年7月のCおよび今年7月のCによっても確認された。

〔問〕

- 1 下線部 a に関する記述として、誤っているものはどれか。1つ選び、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。
ア アメリカは桂・タフト協定で日本の韓国支配を承認していた。
イ イギリスは第2次日英同盟協約で日本の韓国支配を承認していた。
ウ ロシアはポーツマス講和条約で日本の韓国支配を承認していた。
エ 韓国皇帝は日本による保護国化の不当を訴えるためハーグ万国平和会議に密使を送った。
オ 日本は韓国皇帝を退位させ、第2次日韓協約を結んで韓国内政権を掌握した。

- 2 下線部 b に関する記述として、正しいものはどれか。1つ選び、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。
ア 清と日本はこの「条約」で朝鮮を共同統治すると規定した。
イ 朝鮮と日本はこの「条約」で朝鮮が自主の国であると規定した。
ウ 清と日本はこの「条約」を承認しあった。
エ 清と日本はこの「条約」で朝鮮の開国を規定した。
オ 清は朝鮮とこの「条約」を結んで朝鮮の開国を承認した。

- 3 下線部 c に該当する「事件」名を漢字で記述解答用紙に記入せよ。

- 4 下線部 d に関する記述として、正しいものはどれか。2つ選び、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。
- ア この「協定」は井上馨と李鴻章との間で締結された。
 - イ この「協定」は朝鮮に対する清の支配権を取り決めた。
 - ウ この「協定」は日清両国軍の朝鮮駐留を取り決めた。
 - エ この「協定」は朝鮮に派兵する際、相互に事前通告することを取り決めた。
 - オ この「協定」の規定を根拠に1894年日本は朝鮮に派兵した。
- 5 下線部 e に関する記述として、正しいものはどれか。2つ選び、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。
- ア この「反乱」は防穀令をめぐる紛糾をきっかけとして起こった。
 - イ この「反乱」は東学の信者を中心とする農民がおこした。
 - ウ この「反乱」は日本の朝鮮保護国化に対する不満から起こった。
 - エ 日本が朝鮮に出兵したため「反乱」はいっそう激しくなった。
 - オ 朝鮮政府は「反乱」鎮圧のため、清に出兵を要請した。
- 6 A には、下線部 f 後の状況に関する記述が入る。該当する内容として正しいものはどれか。1つ選び、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。
- ア 朝鮮国王がロシア公使館に避難した。
 - イ 日本の朝鮮駐在公使が井上馨に代わった。
 - ウ 日本の朝鮮支配がいっそう強まった。
 - エ 大院君の権力が確立した。
 - オ 事件に関与した三浦梧楼が重罪に処された。
- 7 下線部 g に関連して、ロシアが満州を占領するきっかけとなった出来事の名を漢字4字で記述解答用紙に記入せよ。
- 8 下線部 h のために締結された外交文書名を漢字で記述解答用紙に記入せよ。
- 9 B に該当する人物の姓名を漢字で記述解答用紙に記入せよ。
- 10 C に該当する語句を漢字4字で記述解答用紙に記入せよ。

IV 次の英文は1930年代初期の日本における政治状況に関連するものである。この文章を読み、後の問に答えなさい。

Although newspaper and radio accounts of the cheering crowds that greeted Matsuoka Yosuke at Yokohama created an image of a country united behind its government, many men and women *took umbrage at aggression overseas and observed that gains on the battlefield were not yielding any solutions to the economic crisis at home. Articles **opugning the actions of the Kwantung Army filled the pages of liberal journals in 1931 and 1932. Writing in the April 1932 issue of the *Kaizo* (“Reconstruction”), Yanaihara Tadao, the specialist on colonial policy who taught at Tokyo University, denounced Japan’s military actions in Manchuria as self-defeating and foretold their ultimate inability to withstand the increasingly robust vitality of Chinese nationalism. Farther to the left, the socialist Yamakawa Kikue contributed an essay to the November 1931 edition of the major woman’s publication *Fujin koron* (“Women’s Review”), questioning whether mothers ought to bear more children if their offspring merely were going to end up as fodder for a militarist government. Even regional newspapers sounded a critical note.

However earnest they may have been, dissidents found it increasingly difficult to speak out effectively. For one thing, displays of popular patriotism, such as the reception given to Matsuoka upon his return, discouraged the expression of antiwar sentiments. Moreover, many prominent liberals publicly accepted the new domestic policies and foreign policy initiatives of the early 1930s, further robbing nonconformist views of their legitimacy. Even Yoshino Sakuzo, one of Japan’s best-known supporters of democracy, seemed ready to throw in the towel. Many Japanese, he wrote in 1932, viewed the accomplishments of the Kwantung Army as a welcomed contrast with years of “ineffectual negotiations” by party cabinets. In addition, they, even he, had grown resigned to the fact that party government in Japan “is an unholy alliance between unprincipled party leaders and equally unprincipled leaders of big business,” with the consequence that official policies catered to “the interests of big business, while the little man, and particularly the farmer, is progressively impoverished.” It was enough to make one despair, especially when one looked at the assault on democracy taking place in Europe. “There is a feeling among the Japanese,” Yoshino concluded, “that if democracy is not quite good enough for those who invented it, then Japan, who has always slightly distrusted it, has no particular reason for keeping it going.”

Even more shocking to many was Yosano Akiko’s newfound praise for militarism. Famous during the Taisho era for her feminist critiques, Yosano had first stepped into the public spotlight when she published several antiwar poems during the Russo-Japanese conflict of 1904 and 1905. The most prominent of those was a plea to her younger brother:

Do not offer your life.
The Emperor himself does not go to battle.
The Imperial Heart is deep;
How could he ever wish
That men shed their blood,
That men die like beasts,
That men’s glory be in death?

In 1932, however, Yosano's "Citizens of Japan, A Morning Song" urged Japanese soldiers to endure "sufferings a hundredfold" and used the familiar metaphor about falling cherry blossoms, scattered by the wind at the peak of their beauty, to glorify the death of a soldier whose "scattered" body was "purer than a flower."

*took umbrage: took offence **oppugning: attacking

(出典は, James L. McClain, *Japan: A Modern History*. 原文に一部変更が加えてある。)

〔問〕

- 1 下線部(1)の人物に関する記述として、間違っているものはどれか。1つ選び、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。
 - ア 日独伊三国同盟の締結に関与した。
 - イ 日本の国際連盟からの脱退を宣言した。
 - ウ 第二次近衛内閣の外相を務めた。
 - エ 日ソ中立条約の締結に関与した。
 - オ 第二次大戦後は、A級戦犯としては訴追されなかった。

- 2 下線部(2)に関連する記述として、間違っているものはどれか。2つ選び、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。
 - ア 中国共産党は抗日救国統一戦線と呼び掛けた。
 - イ 西安事件をきっかけに第二次国共合作が成立した。
 - ウ 上海に汪兆銘を中心とする政権が成立した。
 - エ 満州事変以後、日中軍事協定(塘沽停戦協定)が結ばれた。
 - オ 南京事件をひとつの契機として中国人の抗日意識が高まった。

- 3 下線部(3)の人物とともに赤瀾会の設立に協力し、その後、甘粕事件で殺害された人物の名前を漢字4字で記述用紙に記入せよ。

- 4 下線部(4)の、その著者の発言に関連して、正しい記述はどれか。1つ選び、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。
 - ア 自分の子どもが軍国主義政府に利用されて死んでしまうなら、女性はさらに子どもを産むべきかどうか考えるべきである。
 - イ 自分の子どもが軍国主義政府の手先となり、戦場で多くの敵兵を殺すなら、女性は男の子よりもっと女の子を産むべきである。
 - ウ 自分の子どもが軍国主義政府のために戦争で命を落としても、女性は子どもをもっと産んで国に尽くすべきである。
 - エ 自分の子どもが軍国主義政府に最後まで忠実に尽くして死ぬのなら、女性は子どもを産むことにもっと誇りをもつべきである。
 - オ 戦場で死んだ自分の子どもの命が軍国主義政府によって保障されるなら、子どもをもっと産むことは女性にとって無意味ではない。

- 5 下線部(5)の人物が提唱した政治思想を漢字4字で記述解答用紙に記入せよ。
- 6 下線部(6)でその著者が書いた内容に最も合致するものはどれか。1つ選び、マーク解答用紙の該当記号をマークしなさい。
- ア 数年に及ぶ議会での無駄な議論も、関東軍の侵略的行為も同じく危険だと多くの日本人は思った。
 - イ 多くの日本人は、数年に及ぶ議会での無駄な議論に比べれば、関東軍の業績は好ましいと見なした。
 - ウ 多くの日本人は、関東軍の行動を批判的にとらえながらも、議会における数年に及ぶ無駄な議論を批判しきれなかった。
 - エ 関東軍の危険な軍事活動に比べれば、議会における数年に及ぶ議論はまだましだと多くの日本人は考えた。
 - オ 関東軍の軍事活動も、議会での数年に及ぶ無駄な議論も同じく必要だと多くの日本人は思っていた。
- 7 下線部(7)で、下線部(5)の人物が結論付けている説明として最も適切なものはどれか。1つ選び、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。
- ア 民主主義を生み出した西洋でそれが好ましくなければ、民主主義を疑問視してきた日本でそれを維持する理由はないという感情が日本人の間に広まった。
 - イ 民主主義は根本的に西洋の思想であり、日本にはなじまないの、それを拒否すべきであるという感情が日本人の間に蔓延した。
 - ウ 民主主義がその発祥の地である西洋で機能を果たしていないとしても、それを拒否する理由はないという感情が日本人の間に広まった。
 - エ 西洋でも日本でも民主主義が疑問視されているなら、民主主義をこれ以上維持する理由はないという感情が日本人の間に蔓延した。
 - オ 民主主義は日本では疑問視されているが、それを生み出した西洋では、民主主義は依然として有効な政治思想であるという感情が日本人の間に広まった。
- 8 下線部(8)の人物が最初に刊行した歌集の名前を4字で記述解答用紙に記入せよ。
- 9 下線部(8)の人物の夫が創刊した雑誌の名前を漢字2字で記述解答用紙に記入せよ。
- 10 下線部(9)の詩の解釈として正しいものはどれか。1つ選び、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。
- ア 国民も兵士も戦争に行かない天皇を批判すべきである。
 - イ 天皇の御心は深く、兵士が血を流し、野獣のように死んでいくことなど求めてはいない。
 - ウ 戦争に行かない天皇は、兵士の名誉は死ぬことにあると思っている。
 - エ 普通の兵士のように天皇も戦争で国のために命を捧げるべきである。
 - オ 天皇の命令に従い、潔く死ぬのが兵士の名誉である。

[以下余白]

早稲田大学 国際教養学部
2017年度 入試問題の訂正内容

<国際教養学部 一般入試>

【日本史】

問題冊子9ページ：設問Ⅳ [問3] 問題文

(誤)

～名前を漢字4字で記述用紙に記入せよ。

(正)

～名前を漢字4字で記述解答用紙に記入せよ。

以上